

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	和歌山コンピュータビジネス専門学校
設置者名	学校法人三木学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	IT科(4年制) ICTプロフェッショナルコース	夜・通信	101単位 (4年間)	12単位	
	IT科システムエンジニアコース	夜・通信	42単位 (2年間)	6単位	
	IT科ITエキスパートコース	夜・通信	42単位 (2・3年間)	6・9単位	
	IT科コンピュータグラフィックスコース	夜・通信	24単位 (2・3年間)	6・9単位	
	IT科国際ITビジネスコース	夜・通信	31単位 (2年間)	6単位	
	IT基礎科ITビジネスコース	夜・通信	15単位 (1年間)	3単位	
	IT基礎科国際ビジネスコース	夜・通信	15単位 (1年間)	3単位	
商業実務専門課程	ビジネス科公務員専攻コース	夜・通信			※
	ビジネス科公務員マスターコース	夜・通信			※
	ビジネス科国際ビジネスマネジメントコース	夜・通信	40単位 (2年間)	6単位	
	DX経営イノベーションコース	夜・通信	3318時間 (4年間)	320時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.myros.ac.jp/about/info/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名

(困難である理由)

ビジネス科は公務員を目指す学科としてカリキュラムが設定されているが、現役の公務員が副業で教鞭をとることが難しい為、要件を満たすことは困難である。またビジネス科国際ビジネスマネジメントコースは留学生を対象としたコースであるため、要件に該当しない。
--

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	和歌山コンピュータビジネス専門学校
設置者名	学校法人三木学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学ホームページにて公開している。
<https://www.myros.ac.jp/about/info/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	ファイナンシャルプランナー	令和7年4月1日～令和9年度定時評議員会 終結の時まで	会計事務所職員・ファイナンシャルプランナーとして、学校法人の財務諸表の作成、監査、税務申告を担当します。正確な会計記録の維持は、財務健全性の確保と、利害関係者への信頼性の高い情報提供に不可欠であり、理事として適任です。
非常勤	IT企業役員	令和7年4月1日～令和9年度定時評議員会 終結の時まで	IT企業の管理職として、先端の技術革新をリードし、プロジェクト管理、チームビルディング、そして戦略的意思決定を通じて会社の成長を促進した実績があります。教育分野におけるITソリューションの開発にも注力し、学校法人の運営効率化に貢献しており、理事として適任です。
非常勤	本学元副校長	令和7年4月1日～令和9年度定	元本学の管理職として学校立ち上げから携わった経験を活かし、学校法人の運営

		時評議員会 終結の時ま で	における教育プログラムの質の向上、施設管理、そして財務戦略の策定に深い洞察を提供します。この経験は、学校法人が直面する様々な課題に対応するための貴重な資源であり、理事として適任です。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	和歌山コンピュータビジネス専門学校
設置者名	学校法人三木学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 職業実践専門課程認定を得るに際して、学校評価委員を決定するなど、授業計画に外部専門家の意見を取り入れ、委員会を開催する機会を授業に活かしている。またシラバスは以前から担当教員が記載し、学科長が取りまとめるなど、組織的な授業計画を行っており、ホームページ上でこれを公表している。	
授業計画書の公表方法	HPにて、シラバスを全教科公開している。 https://www.myros.ac.jp/about/info/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学業成績の評価は、下記の項目により総合的に判断して行う。ただし、科目により重点評価項目が異なる場合がある。 (1) 評価項目 授業態度、課題の提出と達成の状況、授業への貢献度、検定試験・模擬試験の結果、科目末試験の結果、学習への取り組み姿勢、日常確認試験の結果 (2) 評価方法 評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当者が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。 (3) 評価基準 下記の評定のうち、「A・B・C」の評価により科目の修得(合格)を認定する。下記得点は評価の目安とする。 A:科目の総合的评价が優秀である。100点満点換算で100点～80点 B:科目の総合的评价が優良である。100点満点換算で79点～60点 C:科目の総合的评价が良好である。100点満点換算で59点～40点 D:科目の総合的评价が認定基準に満たない。100点満点換算で39点以下 ※D評定は科目未修得(不合格)となる。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 算定基準は、上記及びシラバス規定に従い算出された点数を、下記計算式に当てはめて計算しGPAに準ずる客観的な指標を設定している。 (優秀の単位数×3) + (優良の単位数×2) + (良好の単位数×1) ÷ 合計の単位数 例 科目①が95点の「優秀」で2単位 科目②が65点の「優良」で4単位 科目③が55点の「良好」で2単位 → (2×3) + (4×2) + (2×1) ÷ 8 = 2 算定成績=2 ※100点満点中39点以下の場合、単位を取得できないので上記計算式には含まない。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	H P https://www.myros.ac.jp/about/info/にて「学習の手引」を公開し、上記の成績評価方法を開示している。
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。 (1) 1年制コース 修得(合格)科目の単位数合計が31単位以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。 (2) 2年制コース／3年制コース 修得(合格)科目の単位数合計が2年間または3年間で62単位以上である。 ※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかなければならない。 ※2年制コース・3年制コースを卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。 (3) 4年生コース 修得(合格)科目の単位数合計が4年間で124単位以上である。 ※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかなければならない。 ※4年制コースを卒業する場合、『高度専門士』の称号を付与する。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	H P https://www.myros.ac.jp/about/info/ にて「学習の手引」を公開し、上記の進級・卒業・留年等の基準について情報を開示している。

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	和歌山コンピュータビジネス専門学校
設置者名	学校法人三木学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	HPに掲載。 https://www.myros.ac.jp/about/info/
収支計算書又は損益計算書	HPに掲載。 https://www.myros.ac.jp/about/info/
財産目録	HPに掲載。 https://www.myros.ac.jp/about/info/
事業報告書	HPに掲載。 https://www.myros.ac.jp/about/info/
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	IT 科（4 年制）ICT プロフェッショナル コース		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	単位時間／124 単位	単位時間 /129 単位	単位時間 /56 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間／185 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		35 人	0 人	6 人の内数	2 人	8 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 高度情報化社会で専門家に必要な情報技術の基礎知識や、基幹的な資格を取得し、より高度な技術習得に向け、自ら学び社会の動向に柔軟に対応できる人材の育成を目的とする。また組織の一員として、人間味あるコミュニケーションを行い、協働作業等においてリーダーシップを発揮する人材を育成する。 具体的には、J A V A、C #、P y t h o nといったプログラミング言語を取得し、国家資格受験を励行する。 3年目からは企業連携を始め、応用情報技術者試験、さらに高度情報処理技術者試験の取得を目指す。また今後の時代ニーズに沿って、セキュリティコンテスト（CTF）に出場する等、インターネットやネットワークトラブルに対応できるスペシャリストを育成する。
成績評価の基準・方法
（概要） 評価項目は授業態度、課題の提出と達成の状況、授業への貢献度、検定試験・模擬試験の結果、科目末試験の結果、学習への取り組み姿勢、日常確認試験の結果で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当

者が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得（合格）を認定する。
卒業・進級の認定基準 （概要） 進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。 1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。 (1)進級 修得（合格）科目の単位数合計が 31 単位以上である。 (2)仮進級 修得（合格）科目の単位数合計が 24 単位以上である。24 単位未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。なお、仮進級は 1 年毎に認めるものとし、連続する在学年度において仮進級することは認めない。 2. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。 修得（合格）科目の単位数合計が 4 年間で 124 単位以上である。 ※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかなければならない。 ※ 4 年制コースを卒業する場合、『高度専門士』の称号を付与する。
学修支援等 （概要） 進路に合わせたゼミ制度をとっており、学生の習熟度を見て補習し、受験させる検定資格を相談の上決定している。年に一度三者面談を行うなど、学生の学習の進捗状況を保護者に伝える。また授業アンケートを毎年行うことで、学生満足度の向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0 人 (%)	0 人 (%)	0 人 (%)	0 人 (%)
（主な就職、業界等） IT 業界（運用・開発）部門への就職、また県内就職では IT に関わる仕事一般が該当するが新設コースなので実績なし。			
（就職指導内容） 進路指導部が学内に企業を呼び、会社説明会を行うなど、県内外から多くの求人票を頂き、学生に提示している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験、IT パスポート試験。高度情報処理技術者試験。			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
令和6年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	IT 科（システムエンジニアコース）	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	単位時間／62 単位	単位時間 /56 単位	単位時間 /30 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間／86 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
260 人の内数		55 人	0 人	6 人の内数	2 人	8 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 高度情報化社会で専門家に必要な情報技術の基礎知識や、基幹的な資格を取得し、より高度な技術習得に向け、自ら学び社会の動向に柔軟に対応できる人材の育成を目的とする。また組織の一員として、人間味あるコミュニケーションを行い、協働作業等においてリーダーシップを発揮する人材を育成する。 具体的には、J A V A、C #、P y t h o nといったプログラミング言語を取得し、国家資格受験を励行する。
成績評価の基準・方法
(概要) 評価項目は授業態度、課題の提出と達成の状況、授業への貢献度、検定試験・模擬試験の結果、科目末試験の結果、学習への取り組み姿勢、日常確認試験の結果で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当者が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得（合格）を認定する。
卒業・進級の認定基準

(概要) 進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。 1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。 (1)進級 修得（合格）科目の単位数合計が 31 単位以上である。 (2)仮進級 修得（合格）科目の単位数合計が 24 単位以上である。24 単位未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。なお、仮進級は 1 年毎に認めるものとし、連続する在学年度において仮進級することは認めない。 2. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。 修得（合格）科目の単位数合計が 2 年間で 62 単位以上である。 ※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかなければならない。 ※2 年制コースを卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。
学修支援等
(概要) クラス担任制をとっており、学生の習熟度を見て補習し、受験させる検定資格を相談の上決定している。年に一度三者面談を行うなど、学生の学習の進捗状況を保護者に伝える。また授業アンケートを毎年行うことで、学生満足度の向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
35 人 (100%)	0 人 (%)	33 人 (94%)	2 人 (6%)
(主な就職、業界等) IT 業界（運用・開発）部門への就職、また県内就職では IT に関わる仕事一般が該当する。			
(就職指導内容) 進路指導部が学内に企業を呼び、会社説明会を行うなど、県内外から多くの求人票を頂き、学生に提示している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、セキュリティマネジメント試験、IT パスポート試験			
(備考)（任意記載事項） 積極的に就職活動を行っていたが 1 名については、拘りが強く決定しなかった。もう 1 名については、後半就職活動を行わなかった。			

中途退学の現状（IT 科システムエンジニアコース）		
令和 6 年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
55 人	1 人	1.8%

(中途退学の主な理由) 進路変更による退学。
(中退防止・中退者支援のための取組) 校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	IT 科 (IT エキスパートコース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年 3 年	昼間	単位時間／62 単位	単位時間 /68 単位	単位時間 /28 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			96 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
260 人の内数		55 人	0 人	6 人の内数	2 人	8 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 高度情報化社会で専門家に必要な情報技術の基礎知識や、基幹的な資格を取得し、より高度な技術習得に向け、自ら学び社会の動向に柔軟に対応できる人材の育成を目的とする。また組織の一員として、人間味あるコミュニケーションを行い、協働作業等においてリーダーシップを発揮する人材の育成を育成する。 具体的にはCAD操作やWEBプログラミング知識を身につけ、ITのソフトウェア操作に慣れる等、2年間または3年間で実践的な内容を学習する。
成績評価の基準・方法
(概要) 評価項目は授業態度、課題の提出と達成の状況、授業への貢献度、検定試験・模擬試験の結果、科目末試験の結果、学習への取り組み姿勢、日常確認試験の結果で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当者が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得（合格）を認定する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。 1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。 (1)進級 修得（合格）科目の単位数合計が 31 単位以上である。 (2)仮進級 修得（合格）科目の単位数合計が 24 単位以上である。24 単位未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。なお、仮進級は 1 年毎に認めるものとし、連続する在学年度において仮進級することは認めない。

2. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。 修得（合格）科目の単位数合計が2年間または3年間で62単位以上である。 ※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかなければならない。 ※2年制コース・3年制コースを卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。
学修支援等
（概要） クラス担任制をとっており、学生の習熟度を見て補習し、受験させる検定資格を相談の上決定している。年に一度三者面談を行うなど、学生の学習の進捗状況を保護者に伝える。また授業アンケートを毎年行うことで、学生満足度の向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
39 人 (100%)	0 人 (0%)	29 人 (74%)	10 人 (26%)
（主な就職、業界等） IT 業界（運用・開発）部門への就職、また県内就職では IT に関わる仕事一般が該当する。			
（就職指導内容） 進路指導部が学内に企業を呼び、会社説明会を行うなど、県内外から多くの求人票を頂き、学生に提示している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） IT パスポート試験、CAD 利用技術者試験			
（備考）（任意記載事項） リクナビ・マイナビ等の就職サイトを使って就職活動を自身で行いたいとの意思を尊重したが、最終的に決定しなかった。ただし、10 名のうち本学の斡旋で3名は内定しているが、内定辞退している。他の学生は課題提出状況が悪く、卒業するのがやっとといった状態だった。			

中途退学の現状（IT 科 IT エキスパートコース）		
令和6年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
63 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	IT 科（コンピュータグラフィックスコース）	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年 3 年	昼間	単位時間／62 単位	単位時間 /43 単位	単位時間 /37 単位	0 時間	0 時間	0 時間
			80 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
260 人の内数		16 人	0 人	6 人の内数	1 人	7 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 高度情報化社会で専門家に必要な情報技術の基礎知識や、基幹的な資格を取得し、より高度な技術習得に向け、自ら学び社会の動向に柔軟に対応できる人材の育成を目的とする。また組織の一員として、人間味あるコミュニケーションを行い、協働作業等においてリーダーシップを発揮する人材を育成する。 具体的には Photoshop や Illustrator、また 3D ソフト等の操作を学習し、デザインに必要な知識を身につける。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 評価項目は授業態度、課題の提出と達成の状況、授業への貢献度、検定試験・模擬試験の結果、科目末試験の結果、学習への取り組み姿勢、日常確認試験の結果で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当者が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得（合格）を認定する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。 1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。 (1)進級 修得（合格）科目の単位数合計が 31 単位以上である。 (2)仮進級 修得（合格）科目の単位数合計が 24 単位以上である。24 単位未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。なお、仮進級は 1 年毎に認めるものとし、連続する在学年度において仮進級することは認めない。 2. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。 修得（合格）科目の単位数合計が 2 年間または 3 年間で 62 単位以上である。 ※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかなければならない。 ※ 2 年制コース・3 年制コースを卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。	

学修支援等
(概要) クラス担任制をとっており、学生の習熟度を見て補習し、受験させる検定資格を相談の上決定している。年に一度三者面談を行うなど、学生の学習の進捗状況を保護者に伝える。また授業アンケートを毎年行うことで、学生満足度の向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15 人 (100%)	0 人 (0%)	12 人 (80%)	3 人 (20%)
(主な就職、業界等) デザイン・ゲーム業界への就職、また県内就職では印刷会社やパッケージ会社、ホームページ制作会社等、デザインに関わる仕事一般が該当する。			
(就職指導内容) 進路指導部が学内に企業を呼び、会社説明会を行うなど、県内外から多くの求人票を頂き、学生に提示している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) Photoshop クリエイター能力認定試験、Illustrator クリエイター能力認定試験、色彩検定。その他デザインコンクールへのチャレンジを随時行っている。			
(備考)（任意記載事項） 卒業することに注力し、就職活動には及ばないケースがあった。またアルバイトで高収入を得ている学生は就職を選択しないケースも見受けられた。			

中途退学の現状（IT 科コンピュータグラフィックスコース）		
令和 6 年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
25 人	1 人	4.0%
(中途退学の主な理由) 心理的な病気で退学となった。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	IT 科（国際 IT ビジネスコース）	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	単位時間／62 単位	単位時間 /41 単位	単位時間 /37 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			78 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
260 人の内数		76 人	76 人	10 人の内数	3 人	13 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 高度情報化社会で専門家に必要な情報技術の基礎知識や、基幹的な資格を取得し、より高度な技術習得に向け、自ら学び社会の動向に柔軟に対応できる人材の育成を目的とする。また組織の一員として、人間味あるコミュニケーションを行い、協働作業等においてリーダーシップを発揮する人材を育成する。 具体的には留学生の就職に必要なスキル、CAD、WEB ページ作成等 WEB デザインに必要な知識を身につける。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 評価項目は授業態度、課題の提出と達成の状況、授業への貢献度、検定試験・模擬試験の結果、科目末試験の結果、学習への取り組み姿勢、日常確認試験の結果で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当者が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得（合格）を認定する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。 1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。 (1)進級 修得（合格）科目の単位数合計が 31 単位以上である。 (2)仮進級 修得（合格）科目の単位数合計が 24 単位以上である。24 単位未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。なお、仮進級は 1 年毎に認めるものとし、連続する在学年度において仮進級することは認めない。 2. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。 修得（合格）科目の単位数合計が 2 年間で 62 単位以上である。 ※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかなければならない。 ※2 年制コースを卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。	

学修支援等
(概要) クラス担任制をとっており、学生の習熟度を見て補習し、受験させる検定資格を相談の上決定している。年に一度三者面談を行うなど、学生の学習の進捗状況を保護者に伝える。また授業アンケートを毎年行うことで、学生満足度の向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
28 人 (100%)	0 人 (%)	28 人 (100%)	0 人 (%)
(主な就職、業界等) I Tを使った就職先の中でC A D系、W E B系の就職が多くを占めた。			
(就職指導内容) 進路指導部が学内に企業を呼び、会社説明会を行うなど、県内外から多くの求人票を頂き、学生に提示している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 日本語検定 N1、N2 の取得を目指しながら、実践的な CAD や WEB 操作を学習する。IT パスポート試験、MOS の試験を取得する。			
(備考)（任意記載事項） 日本語学校を卒業していても日本語力が拙い学生のために、日本語能力向上を目的に授業を週に 1 日行っている。			

中途退学の現状（IT 科国際 IT ビジネスコース）		
令和 6 年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
76 人	6 人	7.8%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	IT 基礎科（IT ビジネスコース）				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼間	単位時間／31 単位	単位時間 /36 単位	単位時間 /20 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			56 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
5 人の内数		1 人	0 人	1 人	0 人	1 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 高度情報化社会で専門家に必要な情報技術の基礎知識や、基幹的な資格を取得し、より高度な技術習得に向け、自ら学び社会の動向に柔軟に対応できる人材の育成を目的とする。また組織の一員として、人間味あるコミュニケーションを行い、協働作業等においてリーダーシップを発揮する人材の育成を育成する。 具体的には基礎的なCAD操作やWEBプログラミング知識を身につけ、ITのソフトウェア操作に慣れる等、1年間で実践的な内容を学習する。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 評価項目は授業態度、課題の提出と達成の状況、授業への貢献度、検定試験・模擬試験の結果、科目末試験の結果、学習への取り組み姿勢、日常確認試験の結果で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当者が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得（合格）を認定する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。 修得（合格）科目の単位数合計が 31 単位以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。	
学修支援等	
（概要） クラス担任制をとっており、学生の習熟度を見て補習し、受験させる検定資格を相談の上決定している。年に一度三者面談を行うなど、学生の学習の進捗状況を保護者に伝える。また授業アンケートを毎年行うことで、学生満足度の向上を図っている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他

0 人 (%)	0 人 (0%)	0 人 (%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果 (資格・検定等))			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状 (IT 基礎科 IT ビジネスコース)		
R6 年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	IT 基礎科（国際ビジネスコース）				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼間	単位時間／31 単位	単位時間 /23 単位	単位時間 17 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			40 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
5 人の内数		0 人	0 人	0 人	1 人	1 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 高度情報化社会で専門家に必要な情報技術の基礎知識や、基幹的な資格を取得し、より高度な技術習得に向け、自ら学び社会の動向に柔軟に対応できる人材の育成を目的とする。また組織の一員として、人間味あるコミュニケーションを行い、協働作業等においてリーダーシップを発揮する人材の育成を育成する。 具体的にはCAD操作やWEBプログラミング知識を身につけ、ITのソフトウェア操作に慣れる等、1年間で実践的な内容を学習する。
成績評価の基準・方法

(概要) 評価項目は授業態度、課題の提出と達成の状況、授業への貢献度、検定試験・模擬試験の結果、科目末試験の結果、学習への取り組み姿勢、日常確認試験の結果で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当者が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得（合格）を認定する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。 修得（合格）科目の単位数合計が 32 単位以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。
学修支援等
(概要) クラス担任制をとっており、学生の習熟度を見て補習し、受験させる検定資格を相談の上決定している。年に一度三者面談を行うなど、学生の学習の進捗状況を保護者に伝える。また授業アンケートを毎年行うことで、学生満足度の向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0 人 (%)	0 人 (0%)	0 人 (%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状（IT 基礎科 IT ビジネスコース）		
R6 年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		

(中退防止・中退者支援のための取組)

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
商業		商業実務専門課程	ビジネス科（公務員マスターコース）		○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		開設している授業の種類				
				講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	単位時間／62 単位		単位時間／93 単位	単位時間／13 単位	0 時間	0 時間	0 時間
				106 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数		専任教員数		兼任教員数	総教員数
12 人		15 人	0 人		4 人の内数		0 人	4 人の内数

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 公共サービスの提供、国民の生命や財産を守る使命感と実践的能力を持ち、住民との円滑な交流を行える公務員の育成を目指す。知識習得においては過去問題の分析に用いた模擬試験を効率的に行い、密度の高い授業を行い短期間での公務員試験の合格を目指す。
成績評価の基準・方法
（概要） 評価項目は授業態度、課題の提出と達成の状況、授業への貢献度、検定試験・模擬試験の結果、科目末試験の結果、学習への取り組み姿勢、日常確認試験の結果で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当者が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得（合格）を認定する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。 1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。 (1)進級 修得（合格）科目の単位数合計が 31 単位以上である。 (2)仮進級 修得（合格）科目の単位数合計が 24 単位以上である。24 単位未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。なお、仮進級は 1 年毎に認めるものとし、連続する在学年度において仮進級することは認めない。 2. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。 修得（合格）科目の単位数合計が 2 年間で 62 単位以上である。 ※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかなければならない。 ※2 年制コースを卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。
学修支援等

(概要)
担任制をとり、担当教員が学生の学修上の助言や指導を行います。各試験情報を定期的に発表し、目指す試験についてのアドバイス等も受けることができます。また公務員試験合格に向けた出願書類作成のサポート、面接指導等も随時実施しています。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5 人 (100%)	0 人 (0%)	4 人 (80%)	1 人 (20%)
(主な就職、業界等) 和泉市消防、伊都消防、橋本市消防といった、3 名は消防職へ入職、1 名は民間就職を行っている。			
(就職指導内容) 公務員試験合格に向けた教養試験対策、及び出願書類作成のサポート、面接指導等も随時実施。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 各種公務員試験最終合格。			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
R6 年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
商業		商業実務専門課程	ビジネス科（公務員専攻コース）					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類				
				講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼間	単位時間／31 単位		単位時間／50 単位	単位時間／7 単位	0 時間	0 時間	0 時間
	57 単位							
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数
50 人		17 人	0 人	4 人の内数		0 人		4 人の内数

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 公共サービスの提供、国民の生命や財産を守る使命感と実践的能力を持ち、住民との円滑な交流を行える公務員の育成を目指す。知識習得においては過去問題の分析に用いた模擬試験を効率的に行い、密度の高い授業を行い短期間での公務員試験の合格を目指す。
成績評価の基準・方法
（概要） 評価項目は授業態度、課題の提出と達成の状況、授業への貢献度、検定試験・模擬試験の結果、科目末試験の結果、学習への取り組み姿勢、日常確認試験の結果で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当者が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得（合格）を認定する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。 修得（合格）科目の単位数合計が 31 単位以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。
学修支援等
（概要） 担任制をとり、担当教員が学生の学修上の助言や指導を行います。各試験情報を定期的に発表し、目指す試験についてのアドバイス等も受けることができます。また公務員試験合格に向けた出願書類作成のサポート、面接指導も随時実施しています。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
21 人 (100%)	0 人 (0%)	21 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 都道府県庁行政職員、市町村行政職員、警察署、消防署、国家一般職、税務職員等各種公務員、民間企業等。			
（就職指導内容） 公務員試験合格に向けた教養試験対策、及び出願書類作成のサポート、面接指導等を随時実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 各種公務員試験最終合格。			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
R6 年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24 人	1 人	4.1%
(中途退学の主な理由) 公務員合格による中途採用で退学。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 奨学金の提案や、分割払いの推進を行う。 校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業		商業実務専門課程	ビジネス科（国際ビジネスマネジメントコース）	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	単位時間／62 単位	単位時間 /69 単位	単位時間 /23 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			92 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
100 人		218 人	218 人	10 人の内数	3 人	13 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ビジネスシーンにおける様々な資源や資産、リスクなどを管理し、経営上の効果を最適化する手法を学び、国際的なコミュニケーション力を身につける。 具体的には、マーケティング、接遇、ビジネスマナー、簿記、パソコンリテラシなどの学習により、幅広い業種におけるビジネススタッフを目指す。 併せて、日本語能力習得のため、JLPT 日本語能力試験の N1 合格を目指す。また、検定合格だけに留まらず、アクティブラーニングを取り入れ、より実践的な日本語能力を身につけるための指導を行う。
成績評価の基準・方法
（概要） 評価項目は授業態度、課題の提出と達成の状況、授業への貢献度、検定試験・模擬試験の結果、科目末試験の結果、学習への取り組み姿勢、日常確認試験の結果で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当者が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得（合格）を認定する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。

1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。 (1)進級 修得（合格）科目の単位数合計が 31 単位以上である。 (2)仮進級 修得（合格）科目の単位数合計が 24 単位以上である。24 単位未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。なお、仮進級は 1 年毎に認めるものとし、連続する在学年度において仮進級することは認めない。 2. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。 修得（合格）科目の単位数合計が 2 年間で 62 単位以上である。 ※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかなければならない。 ※ 2 年制コースを卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。
学修支援等
（概要） クラス担任制をとっており、担任を中心に学生の生活指導、学習指導、進路指導を行っている。また、学生の 7 割以上がベトナムからの留学生であることから、ベトナム人スタッフを配置し、学生からの相談にあたっている。近年スリランカ、インド、ネパールの学生割合が増えてきている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
20 人 (100%)	0 人 (0%)	20 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 飲食・飲食管理業の中では白ハトグループ等、その他通訳業、販売業、管理業への就職実績がある。			
（就職指導内容） 現状進路指導部で就職先の新規開発を行う、また和歌山県労働政策課や JETRO と連携し、県内への就職あっせんに努めており、労働政策課は月に 2 回、JETRO は年に 2 回企業セミナーの開催を行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） JLPT（N1）を 3 名の学生が取得するなど、日本語検定の合格にも力を入れるほか、ビジネスマナー検定の取得等にも取り組んだ。また特定技能第 1 号技能測定試験【外食業】に 3 名の合格があった。			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
R6 年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
131 人	5 人	3.8%

(中途退学の主な理由) 経費の関係で進級、卒業を諦めたため退学。
(中退防止・中退者支援のための取組) 学科長、担任、ベトナム人スタッフにより指導を行い、相談体制を取っている。欠席が多い学生には、担任やスタッフから電話や SNS を通じて連絡し、改善が見られない場合は担任、学科長から文書による警告を行うなど、組織的に対応している。

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
商業実務		商業実務専門課程	ビジネス科 DX 経営イノベーションコース				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	3400 単位時間／単位	1777 単位時間／単位	2310 単位時間／単位	0 単位時間／単位	0 単位時間／単位	0 単位時間／単位
			4087 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		0 人	0 人	3 人の内数	0 人	3 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 専門職業人として実践的な能力を磨き、次世代の経営を担う人材を目指す。社会の DX を牽引できるようになるため、経営学や簿記をはじめとする「ビジネス」、データサイエンスやテクノロジー基礎を学び「ICT×DX」、さらに「コミュニケーション」について学習を進める。 併せて、課題発見能力と問題解決能力を培うために、システム思考やデザイン思考などを学び、それらをプレゼンできる能力を養う。次世代のビジネスモデルを構築できる人材を育成するカリキュラムの指導を行う。
成績評価の基準・方法
(概要) 評価項目は授業態度、課題の提出と達成の状況、授業への貢献度、検定試験・模擬試験の結果、科目末試験の結果、学習への取り組み姿勢、日常確認試験の結果で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当者が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得（合格）を認定する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。 1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。 (1)進級 修得（合格）科目の時間数合計が 800 時間以上である。 (2)仮進級 修得（合格）科目の時間数合計が 680 時間以上である。680 時間未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。なお、仮進級は 1 年毎に認めるものとし、連続する在学年度において仮進級することは認めない。

2. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。 修得（合格）科目の単位数合計が4年間で3400時間以上である。 ※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかなければならない。
学修支援等
（概要） クラス担任制をとっており、学生の習熟度を見て補習し、受験させる検定資格を相談の上決定している。年に一度三者面談を行うなど、学生の学習の進捗状況を保護者に伝える。また授業アンケートを毎年行うことで、学生満足度の向上を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)
（主な就職、業界等） IT 業界（運用・開発）部門への就職、また県内就職では IT に関わる仕事一般が該当するが新設コースなので実績なし。			
（就職指導内容） 実績なし。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 実績なし。			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
令和6年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
（中途退学の主な理由） 実績なし。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 実績なし。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
IT 科	100000 円	550000 円	360000 円	1 年目 ※その他のうち 16 万円学習活動費
IT 科		600000 円	360000 円	2 年目以降 ※その他のうち 16 万円学習活動費
IT 科	150000 円	350000 円	240000 円	留学生対象 1 年目 ※その他のうち 10 万円学習活動費
IT 科		400000 円	240000 円	留学生対象 2 年目 ※その他のうち 10 万円学習活動費
IT 基礎科	100000 円	550000 円	360000 円	1 年制 ※その他のうち 16 万円学習活動費
IT 基礎科	150000 円	350000 円	240000 円	留学生対象 1 年制 ※その他のうち 10 万円学習活動費
ビジネス科	100000 円	550000 円	300000 円	1 年目 ※その他のうち 16 万円学習活動費
ビジネス科		600000 円	300000 円	2 年目 ※その他のうち 16 万円学習活動費
ビジネス科	150000 円	350000 円	240000 円	留学生対象 1 年目 ※その他のうち 10 万円学習活動費
ビジネス科		400000 円	240000 円	留学生対象 2 年目 ※その他のうち 10 万円学習活動費
ビジネス科	100000 円	550000 円	360000 円	DX コース 1 年目 ※その他のうち 16 万円学習活動費
ビジネス科		600000 円	360000 円	DX コース 2 年目以降 ※その他のうち 16 万円学習活動費
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) HP にて公開 (https://www.myros.ac.jp/about/info/)		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
「学校関係者評価」の大きな目的は、評価という共同作業を行うことで教職員間、また保護者や地域住民等がお互いに理解を深めることである。学校教育目標に向かうベクトルを合わせることで、双方の協力を目的とする。毎年3月と9月の年2回実施するものとし、委員等の欠席が3分の1以上となった場合は、開催日を起点として前後2週間まで変更するなどを許容し、随時委員会への出席を求めるなど、弾力的な体制をとっている。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
(株)スマート・インサイト	2025. 3. 1～2026. 2. 28	企業等委員
(株)和歌山印刷所	2025. 3. 1～2026. 2. 28	企業等委員
和歌山情報サービス産業協会	2025. 3. 1～2026. 2. 28	企業等委員
和歌山大学システム工学部	2025. 3. 1～2026. 2. 28	学術委員
和歌山大学システム工学部	2025. 3. 1～2026. 2. 28	学術委員
(株)ジーアイソフト	2025. 3. 1～2026. 2. 28	企業等委員
(株)システムキューブ	2025. 3. 1～2026. 2. 28	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) HP にて公開 (https://www.myros.ac.jp/about/info/)		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) HP にて公開 (https://www.myros.ac.jp/about/info/)
--

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
HP にて公開 (<https://www.myros.ac.jp/about/info/>)

学科コース一覧

学科	コース名
IT科 (4年制)	ICTプロフェッショナル
IT科	システムエンジニア
	ITエキスパート
	コンピュータグラフィックス
	国際ITビジネス
IT基礎科	ITビジネス
ビジネス科	国際ビジネスマネジメント
	公務員専攻
	公務員マスター

学科コース一覧

学科	コース名	区分	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		推奨合計時間数	講義実習合計時間	推奨取得単位数	講義実習合計単位
			時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数				
IT科 (4 年制)	ICTプロフェッショナル	講義	510	34	465	31	435	29	525	35	1935	3615	129	185
		演習	360	12	450	15	510	17	360	12	1680		56	
IT科	システムエンジニア	講義	525	35	320	21					845	1745	56	86
		演習	360	12	540	18					900		30	
	ITエキスパート	講義	525	35	495	33					1020	1860	68	96
		演習	360	12	480	16					840		28	
	コンピュータグラフィックス	講義	420	28	225	15					645	1755	43	80
		演習	480	16	630	21					1110		37	
	国際ITビジネス	講義	346	23	271	18					617	1727	41	78
		演習	510	17	600	20					1110		37	
IT基礎科	ITビジネス	講義	540	36							540	1140	36	56
		演習	600	20							600		20	
	国際ビジネス	講義	346	23							346	856	23	40
		演習	510	17							510		17	
ビジネス科	国際ビジネスマネジメント	講義	466	31	571	38					1037	1727	69	92
		演習	390	13	300	10					690		23	
	公務員専攻	講義	750	50							750	978	50	57
		演習	228	7							228		7	
	公務員マスター	講義	765	51	630	42					1395	1803	93	106
		演習	240	8	168	5					408		13	
	DX経営イノベーションコース	講義	676		465		360		276		1777	4087	0	0

設置している学科の一覧（実務教員）

担当教員	科目	コース	授業形態	授業時間数
金井 康治	図形的表現Ⅰ	PM1	講義	60
金井 康治	図形的表現Ⅰ	PM1	演習	60
金井 康治	図形的表現Ⅱ	PM2	講義	60
金井 康治	図像Ⅰ	PM2	講義	15
金井 康治	図像Ⅱ	PM2	講義	15
金井 康治	SP1Ⅰ	PS1	講義	15
金井 康治	SP1Ⅰ	PM1	講義	15
金井 康治	SP1Ⅱ	PM2	講義	15
金井 康治	数値情報処理	PS1	講義	30
金井 康治	数値情報処理	PM1	講義	30
小林 孝実	情報基礎A	PS1	講義	60
小林 孝実	情報基礎B	PS1	講義	30
宮本 朝	情報基礎B	PM1	講義	30
小林 孝実	画像認識対策Ⅱ	PS1	講義	30
小林 孝実	画像認識対策Ⅱ	PM1	講義	30
伊藤 幸	MOSⅠ	PS1	実習	60
伊藤 幸	MOSⅠ	PM1	実習	60
船橋 隆二	グラフィックデザインⅠ(デザイン実習)	IBM1	講義	60
船橋 隆二	グラフィックデザインⅠ(デザイン実習)	IBM1	講義	60
船橋 隆二	グラフィックデザインⅠ(デザイン実習)	IBM1	講義	60
西村 謙	CAD演習Ⅰ	IB1	実習	60
西村 謙	CAD演習Ⅰ	IB2	実習	60
西村 謙	IT(グラフィック)	IB2	講義	60
西村 謙	PCリテラシー	IBM1	実習	60
石谷 隆幸	ビジネスグラフィックⅠ(デザイン)	IB1	実習	60
船橋 隆二	ビジネス実習Ⅰ	IBM1	実習	60
船橋 隆二	ビジネス実習Ⅱ	IBM2	講義	60
船橋 隆二	IT実務知識	IB1	講義	30
船橋 隆二	プレゼンテーション演習	IB1	実習	30
船橋 隆二	プレゼンテーション演習	IBM1	実習	60
船橋 隆二	IT実務	IB2	講義	60
船橋 隆二	IT実務知識	IB1	講義	60
船橋 隆二	ビジネス実習Ⅰ	IBM1	講義	60
船橋 隆二	IT実務	IB2	実習	60
金井 康治	マーケティングⅠ	IBM1	講義	60
金井 康治	マーケティングⅡ	IBM2	講義	60
船橋 隆幸	演習Ⅱ	IBM2	講義	60
船橋 隆幸	グラフィックデザインⅠ(デザイン)	IB1	実習	60
船橋 隆幸	グラフィックデザインⅡ(デザイン)	IB2	実習	60
宮本 朝	グラフィック演習	IB2	実習	60
西村 謙	キャリアサポート実践講座	IB1	講義	15
西村 謙	キャリアサポート実践講座	IBM1	講義	15
西村 謙	キャリアサポート実践講座	IB2	講義	15
西村 謙	キャリアサポート実践講座	IBM2	講義	15
船橋 隆幸	ゲームグラフィックⅠ	ITE2	実習	30
船橋 隆幸	ゲームグラフィックⅡ	SE2	実習	60
船橋 隆幸	ゲームグラフィックⅢ	ICTP2	実習	60
船橋 隆幸	PythonⅠ	SE1	実習	30
船橋 隆幸	C#基礎	SE1	実習	30
船橋 隆幸	C#基礎	ICTP1	実習	30
船橋 隆幸	C#基礎	IB1	実習	30
船橋 隆幸	C#応用	SE2	実習	30
船橋 隆幸	C#応用	ICTP2	実習	30
船橋 隆幸	モバイルアプリケーション開発	ICTP3	実習	30
小林 孝実	情報基礎A	ITE1	講義	30
小林 孝実	情報基礎B	SE1	講義	30
小林 孝実	情報基礎A	CG1	講義	30
小林 孝実	情報基礎B	IB1	講義	30
小林 孝実	画像認識対策Ⅱ	ICTP1	講義	30
小林 孝実	画像認識対策Ⅱ	SE2	講義	180
小林 孝実	画像認識対策Ⅱ	ITE2	講義	180
小林 孝実	画像認識対策Ⅱ	ICTP2	講義	180
小林 孝実	画像認識対策Ⅱ	ICTP3	講義	180
小林 孝実	MOSⅠ	ITE2	実習	60
小林 孝実	MOSⅡ	SE2	実習	60
小林 孝実	MOSⅡ	CG2	実習	60
小林 孝実	MOSⅡ	ICTP2	実習	60
小林 孝実	卒業制作	ICTP4	実習	210
小林 孝実	ゼミⅠ	ITE1	講義	30
小林 孝実	ゼミⅡ	ITE2	講義	30
小林 孝実	ゼミⅢ	ICTP1	講義	30
小林 孝実	ゼミⅣ	ICTP2	講義	60
小林 孝実	ゼミⅤ	ICTP3	講義	60
小林 孝実	ゼミⅥ	ICTP4	講義	60
小林 孝実	卒業制作	SE2	実習	120
小林 孝実	卒業制作	ITE2	実習	120
小林 孝実	作品制作	ICTP3	講義	30
伊藤 幸	MOSⅠ	SE1	実習	60
伊藤 幸	MOSⅠ	ITE1	実習	60
伊藤 幸	MOSⅠ	CG1	実習	60
伊藤 幸	MOSⅠ	ICTP1	実習	60
伊藤 幸	Java	SE2	実習	60
伊藤 幸	Java	ICTP3	実習	60
伊藤 幸	C#基礎	ITE2	実習	30
伊藤 幸	C#基礎	ICTP2	実習	30
伊藤 幸	C#入門	SE1	実習	30
伊藤 幸	C#入門	ITE1	実習	30
伊藤 幸	C#入門	CG1	実習	30
伊藤 幸	C#入門	ICTP1	実習	30
伊藤 幸	C#入門	IB1	実習	30
伊藤 幸	PythonⅡ	SE2	実習	30
船橋 隆幸	ITP実習Ⅰ	CG2	実習	60
船橋 隆幸	ITP実習Ⅰ	CG1	実習	30
船橋 隆幸	キャリアデザインⅠ	IB1	講義	15
船橋 隆幸	キャリアデザインⅠ	ITE1	講義	15
船橋 隆幸	キャリアデザインⅠ	CG1	講義	15
船橋 隆幸	キャリアデザインⅠ	SE1	講義	15
船橋 隆幸	キャリアデザインⅠ	ICTP1	講義	15
船橋 隆幸	キャリアデザインⅡ	SE1	講義	30
船橋 隆幸	キャリアデザインⅡ	IB1	講義	30
船橋 隆幸	キャリアデザインⅡ	ICTP3	講義	30
船橋 隆幸	キャリアデザインⅡ	SE2	講義	30
船橋 隆幸	キャリアデザインⅡ	ITE2	講義	60
船橋 隆幸	キャリアデザインⅢ	CG2	講義	60
船橋 隆幸	キャリアデザインⅢ	ICTP4	講義	60
船橋 隆幸	演習Ⅱ	ITE2	講義	60
船橋 隆幸	演習Ⅱ	ICTP4	講義	60
船橋 隆幸	演習Ⅱ	CG2	講義	15
船橋 隆幸	グラフィックデザインⅡ	CG2	講義	30
船橋 隆幸	卒業制作	CG2	実習	30
船橋 隆幸	CGゼミⅡ	CG2	講義	45
船橋 隆幸	ゼミⅠ	CG1	講義	15
船橋 隆幸	グラフィックデザインⅢ	CG1	実習	60
船橋 隆幸	デザイン実習Ⅰ	ITE1	実習	30
船橋 隆幸	デザイン実習Ⅰ	SE1	実習	30
船橋 隆幸	デザイン実習Ⅰ	IB1	実習	30
船橋 隆幸	デザイン実習Ⅰ	ICTP1	実習	30
船橋 隆幸	デザイン実習Ⅰ	CG1	実習	30
西村 謙	CADⅠ	ICTP1	実習	30
西村 謙	CADⅠ	ITE1	実習	30
西村 謙	CADⅡ	ITE2	実習	60
西村 謙	CADⅢ	ICTP4	実習	60
船橋 隆幸	建築上級士実務	SE2	講義	30
船橋 隆幸	エンゲルマンシステムⅠ	ICTP3	実習	30
宮本 朝	情報基礎B	ITE1	講義	60
宮本 朝	情報基礎B	SE1	講義	60
宮本 朝	情報基礎B	IB1	講義	60
宮本 朝	情報基礎B	ICTP1	講義	60
宮本 朝	情報基礎B	CG1	講義	60
宮本 朝	データベース	SE2	実習	30
宮本 朝	データベース	ICTP2	実習	30
宮本 朝	サーバー演習Ⅰ	SE1	実習	30
宮本 朝	サーバー演習Ⅰ	IB1	実習	30
宮本 朝	サーバー演習Ⅰ	ICTP3	実習	30
宮本 朝	サーバー演習Ⅱ	SE2	実習	30
宮本 朝	基本情報技術	ITE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	ゼミⅠ	SE1	講義	30
宮本 朝	ゼミⅠ	IB1	講義	30
船橋 隆幸	Webマーケティング	ITE1	講義	15
船橋 隆幸	Webマーケティング	SE1	講義	15
船橋 隆幸	Webマーケティング	ICTP1	講義	15
船橋 隆幸	Webマーケティング	CG1	講義	15
船橋 隆幸	Webマーケティング	IB1	講義	15
船橋 隆幸	Webマーケティング	SE2	講義	15
船橋 隆幸	Webマーケティング	ITE2	講義	15
船橋 隆幸	Webマーケティング	CG2	講義	15
船橋 隆幸	Webマーケティング	ICTP2	講義	15
船橋 隆幸	Webマーケティング	ICTP3	講義	15
船橋 隆幸	Webマーケティング	ICTP4	講義	15

金額単位：円

1財産目録総括表

事項		金額	備考
資産総額		260,957,190	
内 訳	基本財産	124,766,250	
	運用財産	136,190,940	
	収益事業用財産		
負債総額		182,994,047	
正味財産		77,963,143	

2資産

(1)基本財産

ア校(園)地

所在地	面積	評価額	備考※①
合計			

イ校(園)舎

所在地	構造	面積	評価額	備考
和歌山市黒田41-1	鉄筋コンクリート造陸屋根 5階建	1,013.65㎡	59,400,000	
和歌山市太田4-5-5	鉄骨造陸屋根4階建て	1,881.71㎡	27,772,282	
合計		2,895.36㎡	87,172,282	

ウ校(園)具・教具・図書・備品

区分	名称	点数及び冊数	評価額	備考
校(園)具	椅子、机 ほか	857点	990,234	
教具	パソコン、プロジェクターほか	566点	21,243,458	
図書	参考図書 ほか	1,537点	3,682,532	
備品	コピー機 他	1,269点	4,842,893	
合計		4,230点	30,759,117	

(2)運用財産

ア預金

預金先	預金種別	利率	金額	備考
紀陽銀行太田支店	当座		1,532,811	
紀陽銀行太田支店	普通	0.200%	102,992,415	
紀陽銀行大阪支店	普通	0.200%	1,719,255	
合計			106,244,481	

イ現金

235,840

3負債

205,591,095

(1)借入金

借入先	借入金種別	利率	金額	備考
合計				

3借用財産

(1)土地

所在地	面積	借用先	借用条件	備考
和歌山市黒田41-1,41-3	516.80㎡	三木 繁清	月額賃料28万円	
合計				

(2)建物

所在地	構造	面積	借用先	借用先条件	備考
和歌山市太田4-5-5	鉄骨造陸屋根4階建て	1,881.71㎡	(有)紀和測量	月額賃料187万円	
合計		1,881.71㎡			

<記載上の注意>

1) A4版上質紙、横書き、左とじ

※ ①設置者変更認可申請、学校法人解散認可(認定)申請の場合は、売買契約書等を添付すること。

ただし、同時に提出する認可申請書において添付済みのものは省略可

校舎、工具等の場合も同様

※ ②金銭以外のもの

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校コード	H130310000045	学校名	和歌山コンピュータビジネス専門学校
設置者名	学校法人三木学園		

Ⅰ. ①直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	349,583,667円	278,670,686円	70,912,981円
申請2年度前の決算	328,620,785円	249,918,348円	78,702,437円
申請3年度前の決算	347,098,824円	227,139,150円	119,959,674円

Ⅰ. ②直前の決算の貸借対照表における「運用資産－外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	106,480,321円	6,297,095円	100,183,226円

Ⅱ. 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率(F)/(E)
今年度(申請年度)	527人	488人	92%
前年度	527人	411人	77%
前々年度	352人	356人	101%

大学・短期大学・高等専門学校で、Ⅱ. 申請校の直近3年度の全ての収容定員充足率が8割未満の場合
申請前年度に当該学校を卒業した者について、今年度(申請年度)5月1日時点の状況について

(A)又は(B)のいずれかを記載

・申請校の直近の進学・就職率の状況(A)学校基本統計を利用する場合

	卒業者数(G)	進学者数+就職者数(H)	進学・就職率(H)/(G)
申請前年度の状況			#DIV/0!

・申請校の直近の進学・就職率の状況(B)学校基本統計を利用しない場合

	進学希望者+就職希望者(I)	進学者数+就職者数(J)	進学・就職率(J)/(I)
申請前年度の状況			#DIV/0!

(Ⅰ. ②の補足資料)「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	資産の内容	申請前年度の決算における金額
現金及び預金	普通預金、当座預金、現金	106,480,321円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	負債の内容	申請前年度の決算における金額
未払金	社会保険料他	5,160,462円
預り金	高等教育無償化交付金他	1,136,633円

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

貸 借 対 照 表

令和7年3月31日

学校法人 三木学園

資産の部		
科目		金額
固定資産		161,197,308
	有形固定資産	132,915,714
	その他の固定資産	28,281,594
流動資産		130,506,394
資産の部 合計		291,703,702
負債の部		
科目		金額
固定負債		0
流動負債		205,591,095
前受金		199,294,000
未払金		3,564,162
未払消費税		1,596,300
預り金		1,136,633
負債の部 合計		205,591,095
純資産の部		
科目		金額
基本金、繰越収支差額		86,112,607
純資産の部 合計		86,112,607
負債及び純資産の部 合計		291,703,702

損益計算書
令和7年3月31日

学校法人 三木学園

収入の部	
科目	金額
純売上高・売上利益	349,583,667
収入の部 合計	349,583,667
負債の部	
科目	金額
販売費及び一般管理費	278,670,686
負債の部 合計	278,670,686
営業利益	
科目	金額
合計	70,912,981
営業外収益	
科目	金額
合計	7,386,126
営業外費用	
科目	金額
合計	82,155
経常利益	
科目	金額
合計	78,216,952